

四季の訪問

(113)

㈱トークス代表取締役

辻田 邦彦 氏

(時習17回)



略歴
 1965年 時習館高校卒業
 1970年 横浜市立大学文学部卒業
 同年 神奈川新聞社入社
 1976年 国際ヒール(㈱)(現ウエバー・シャンドウィック)入社
 1989年 ㈱トークス設立
 代表取締役就任(現)

1986年 89年(任意団体)日本PR協会の理事
 1994年 2000年(社団法人)同協会理事
 2010年 16年(公益社団法人)同協会副理事長

同窓会東京支部に長く携わっており、「大学よりも高校の同窓生には安心感がある」とおっしゃる同期の辻田さんを会社に訪問し、お話を伺った。

▼お生まれはどちら？

疎開先の北設楽郡東郷村の大海、長篠のすぐ近くで生まれたが、父が戦地から帰ると豊橋の東海銀行東八町支店の裏に移転。小学校に入る頃、新城の父の実家に引越した。

▼御家族は？

親父は新城駅のひとつ先の東新町近くで「山大」という田舎のデパートのような家に生まれている。

成人して満州に渡り満州軍の高級将校が泊まるホテルを経営していたが、昭和19年には「この戦は負け戦だ。帰った方がいい」と言われ、帰ってきて、和歌山航空隊で終戦になった。終戦後、豊橋の八町でガラガラッと音がすることからガラ紡と言われていた紡績業を始め、南アジア向けの衣料を製造していたが、船のやり繰りがつかず結局紡績業をたたむことになった。

僕は4人兄弟で4つ上に姉がいて更に2つ上に兄が、2つ離れて弟がいる。兄が9歳の時に亡くなったので、以後僕は長男代わりのように育てられた。親父は満州を心ならずも引き上げ、長男に死なれ、起死回生の紡績業も上手くいかず、体を壊して田舎に入った。結局僕が小学6年生のとき親父は亡くなった。お袋は豊橋の丸物の跡あたりで生まれている。豪気だが、もういところのあった親父と違って大変気丈な人だった。

▼小中学校時代は？

小学校の頃はガキ大将だった。東郷西小から豊橋栄小に転校する前に健康優良児に選ばれた。豊川上流の大川の急流で泳いでいたんで、泳ぎの方には自信があり、南部中学では水泳部に入った。

親父に死なれて、中学校、高校の頃は決して豊かではなく、皆が塾に行っている時に、お袋の行商の手伝いで、僕や姉が自転車を引っ張って売りに歩いた。お袋は昼間尾張一宮で生地を仕入れてきて、背広の生地を学校の先生達に売ったり、当時洗濯機の出始めで洗剤を売ったりしていた。

▼時習館高校時代は？

数学の幾何学が得意だったので数学部に入った。その時のクラブの先生が、「君は頑固だけど論理的に思考が出来るみたいだから裁判官や弁護士のような司法関係に進むのが良いのではないか」と言われたのがなんとなく記憶に残っている。

卒業生の送別会を2月末の学年末試験の終わった後にやるけど、2年の時石川五右衛門を僕が主演でやった。その時の脚本・演出だった稲吉君とは仲良しグループで「自由が丘会」を作って年に4、5回ほど懇談会を開いている。

僕は試験が終わった後によく一人で洋画を見に行った。名画座で、「ウエストサイドストーリー」とか「戦艦バウンティ」とか70ミリの映画があったのでそれが楽しみだった。時習館の隣の南部中学に近い小池町に住んでいて駅前近くにはお袋の手伝いで行くくらいで、高校を卒業するまでパチ



「石川五右衛門」の出演者たちと本人(前列左)

ンコ屋にも喫茶店にも入ったことがなかった。横道にそれたのは大学に入ってからで高校時代は至って真面目な学生だった。

▼大学は？

横浜市立大学。大学に入って柔道部に入部。が、夏合宿まではいったけど、その後直ぐ辞めた。柔道だけをやる4年間なんてことは考えられなかった。半年足らずで退部したが、当時の柔道部仲間とは今でも付き合いがある。

教養課程では語学の専攻でフランス語を分けるけど、僕の専攻はフランス語。フランス語のクラスは女性が多い。2年生の文化祭の時に模擬店でおでん屋を出して、彼女達を売り子にして競わせた。ものすごく売れて、売上は全部で10万円くらいになり5万円くらい儲けた。僕が模擬店も文化祭で特別に出した演劇の方でもリーダーだったので、演劇の方に金をかけられた。しかも余ったお金もあったんで、2回もタダで飲み会を催した。

専門は文学部の政治学。政治学は研究熱心で日本近代史で有名な先生だったが、一番楽しかったので行くことにした。

▼就職は？

商学部の同じ下宿仲間から「就職決まったけど、君はどうする」と言われた時は、もう新聞社くらいしか残ってなかったので慌てて受けた。北海道とか京都とか遊び半分受けて行ったが、最終面接で上手くいかなかった。最終的には地元神奈川新聞に入った。新聞社で最初の職場は校閲部。当時は、まだ鉛の活版印刷でやっていた時代。鉛を扱っているのが仕事が終わると社内の風呂に入ってから帰る。ホワイトカラーの連中は行かないけど、僕は一緒に風呂に入って

組合や仕事の話もするし、飲み屋に一緒に
行ったり、とても親しくやっていた。だから
校閲部長が「これ違っていいけど直せるかな」
といったら、ぱっと行って直したりしたが、
調子に乗りすぎて回っている輪転機を止めた
ことがあって、その後の配送のトラックが全
部遅れて、その人達の残業手当など会社中
の大きな問題になったことがあった。

校閲部の後、普通は社会部に行って神奈
川県警の幾つかの警察署を担当するが、僕
は政経部を経て社会部に行くことになった。

社会部の時に横浜市大を管轄する金沢警
察署の署長は20歳台で仲が良かったので僕
は署に行くといきなり署長室に行って、そ
れから刑事部とか、公安・警備部に戻った。

その管内のマンションのエレベータ内で子
供へのイタズラ事件が多発していた。帰宅
時間を狙ったもので、巡回を工夫すれば防
止できるものだった。社会面のトップでい
くというので、デスクから「署長のコメン
トが欲しい」と言われ、探し回って、一杯
やって上機嫌の署長をつかまえて、コメン
トをとった。「俺とお前の仲で記事にする
わけ無いよな」と言われたけど、翌日社会
面のトップを飾った。

新聞記者は記事を取りに行っているので、
お茶を飲みに行っているわけではない。

「お前は敷居を跨がせない」と言われたこ
とが何回もある。政経部の時に政経部長か
ら「お前は良い仕事をしている。新聞記者
が怖がられなくなったらお終いだ。時に彼
らの望む記事を書くこともあるけど批判記
事を書いて初めて記者だ」と言われた。

社会部の後、通常は通信部の支局に行くが、
支局では電話番号の奥さんと移動手段の運転

免許証が必要となるが、両方ないので、内勤
整理部に配属となった。整理部の時、30歳
前で、「海外に行きたいから会社を2、3週
間休ませて欲しい」と言ったら、「辞めてか
ら行け」と言われて辞めた。この仕事に多少
行き詰まりを感じ始めていたかもしれない。

その後、どこかで働かなきゃあと思って、
ダイヤモンド等週刊誌のフリーライターを
やりながら仕事を探した。毎朝朝礼がある
とか復唱することとかいう会社が多く、一
日か二日で全部辞めた。新聞の求人欄にマ
スコミ関連でそこそ給料の良いフレック
スタイムの会社があった。それが国際ピー
アールという会社で独立系で国内最大のP
R会社だった。

そこで僕が一番最初に担当したのが富士
銀行（現みずほ銀行）。以降鉄鋼・化学・
商社・外銀等大型で主要なクライアントを
担当させてもらった。顧客の窓口の担当者
も将来を嘱望されるような有能な人ばかり
で駆引きも楽しかったので、結局12年間も
お世話になった。

この会社が英国の会社を買収され100%外
資になったのを機に退職独立することにした。

▼現在の仕事 トークスについて？

国際PRには通信社や新聞社の中途退職
者が何人もいた。独立して編集会社を起こ
した先輩に誘われ、間借りのような形でト
ークスというPR会社を起業した。

新聞記者の器量はその人の人脈でわかる。
僕は国際PR時代、会社の金も相当遣わせ
てもらったが、体力、時間、金を人脈づく
りに費やした。横浜で物足りなく感じた人
材が東京には無尽蔵にいた。

トータスではこの人脈がものを言った。

前職では、退職前の3年間、会社の代表と
して日本PR協会の理事をして協会の社団
法人格を取るべく通産省（現経産省）と交
渉に当たった。法人化準備委員長として、
電通の局長や子会社の電通PRの社長とと
もに折衝した。これらの活動を通じて電通
のPRに携わる人と交流が広がった。

起業して間もなく、前職から顧客も社員も
持って来なかった僕を見て電通の関係者から
は「いかにもアンタらしい」と揶揄された。程
なくして東芝のPR誌に英語で取材して原
稿を作成する仕事 came。非常勤役員になっ
てもらった日本外国特派員協会の会長経験
者に頼んだら、それまで難航していたカバ
ーストリーが一発でOKになった。この仕事
は5年弱続いたが、この仕事の成功で電通か
らは大手製薬会社、欧州の自治州政府、出
版社などの仕事が次々に舞い込んできた。一
時期売上上の80%が電通関係の仕事だった。

国際PRの時に培ったスキルに加え、電
通からの仕事でトークスには専門性の高い
スペシャリティーが身につけてきた。ヘル
スケア、テクノロジー、グローバルの3つ
の分野では業界でも一目置かれている存在
になっているが、これも人脈、一口で言う
と仲の良い飲み友達のお陰といえようか。

最近「働きやすい会社」が問題になってい
るが、トークスの社員の7割は女性。中には
産休、育休の者も少なからずいるし、そのよ
うな人をリクルートしてもいる。業務上パワ
ハラ、セクハラにならないよう留意してい
るのは勿論、女性に嫌われないよう大変気を付
けている。よく気の付く家内から加齢臭にな
らないよう注意され、うるさいと言わず、必
ず入浴してから出勤するようにしている。服

装もそれなりに気遣っている。

同期でつい先日「古希の会」を催してき
たが僕も今年で70歳。今後は会社の出勤日
を毎日から4勤3休に早くしたいと考えて
いる。そのためには後継者が必要。50の初
めの時は60で辞めて後は適当にと思ったの
で、後継者はずっと探している。しかし、
帯に短し褌に長し、社員30人の規模の社長
に望まれるのは新規の営業も、実務の現場
も指導でき、リーダーシップも必要とあっ
て、なかなか適当な人がいない。ま、そん
な能力が有ったら自分で会社を始めている
だろうなと思って諦めていたのだが、なん
とかモノになりそうな人がいるので、4勤
3休もそんなに遠くなさそうだ。そのうち
に取締役も外れ、顧問になって気が付いた
ら会社から居なくなっていたというふうに
したいと思っている。

▼奥さんとは？

僕は59の時に17歳違う彼女と結婚した。
顔の広い人が「40過ぎて結婚したいと言っ
ている人がいるんだけど」と紹介され
た。毎年、10日間位の海外旅行に行ってい
る。毎回一カ国中心だからかなりじっくり
観光する。南アフリカとジンバブエでサファ
リにも行った。今年はポルトガル、来年は
アメリカに行く予定でいる。健康を保った
め毎日一万歩を歩くのを目標としているし、
身近なところで高尾山には年々、3回は登っ
ている。

* * * *

「トークス」は人生の作品でもあるとおっ
しゃる辻田さん。作品を仕上げるために、
まだまだご活躍をと期待しています。

(岸 徹)